

猫の保護活動

柏陽中学校3年 高橋 奏

皆さんは地域猫について知っていますか。地域猫とは、簡単に言うと、特定の飼い主がおらず、地域住民の認知と合意の上で、共同管理がされている猫の事をいいます。そしてその地域猫を保護する活動の事を、そのまま地域猫活動といえます。飼い主などがいない猫でも、生きているのだから少しでも助けてあげたいと思っている人もいます。猫は嫌い、警戒心が強いから可愛くない、という人ももちろんいると思います。ですが、野良猫に餌やりをしない事が解決につながるわけでもありません。だから、この活動はお互いの意見をしっかりと聞きわかり合える事が私は大切だと思います。地域猫になるにあたってさくら猫という言葉をご存じでしょうか。さくら猫とは猫を一旦捕獲機で保護し、去勢手術をしてから元の場所に戻すというものです。ちなみにこのさくら猫は、耳がV字にカットされています。野良猫などを見たらぜひ、耳に注目してみてください。

私の家では現在、さくら猫活動というものに取り組んでいます。別名TNRといって、トラック（捕獲する）、ニューター（不妊手術）、リターン（もとに戻す）というものです。この活動を始めたきっかけは道路で野良猫を見かけたことです。まだ小さい白い猫でした。私はその子を見た時、少し切ない気持ちになりました。まだ小さいのに母親もいないのでガリガリにやせていました。野良猫の世界は厳しいのだなと改めて思いました。ご飯もろくに食べられていないのだろうと思い、少しでもそういう猫たちを助けられる方法はないかと思った時、このさくら猫活動というものを知りました。それから私の家の保護猫活動が始まりました。時には猫カフェに行って猫について説明を受けたり、保護猫活動家の人と協力して猫を助けたりして、合わせて十匹ぐらいの猫達を保護し、里親さんの元へ送り届けてきました。いちばん印象に残っている子は二番目の子猫、あられです。あられもまだ小さい子猫でした。保護した時は、怯えていたのか、洗濯機の裏から出てきませんでした。しかし、あられは意外とすぐに人に慣れ、走り回ったり、おもちゃで遊んだりしていました。二週間ぐらい経ったある日、両親からあられの里親が決まったと言われました。元いた場所に返すのがさくら猫活動ですが、子猫は成猫よりも弱く危険だと思ったので新しい飼い主の下で過ごした方が安全だと判断したそうです。せっかく慣れたのにもうお別れかと思うと少し寂しくもなりましたが、この子が幸せに過ごせるなら、と自分に言い聞かせました。

猫が出ていく前日、私は知り合いからもらったさくら猫についてのパンフレットを読んでいた。パンフレットには、何の罪もなく生まれてきた猫達が毎年約八万匹も殺されていると書いてありました。もし、あられを保護していなかったら、この子も死んでいたかもしれない、と私は思いました。一つの命を救えたんだなと思うと嬉しくてあられのことも笑顔で送り出すことができました。三週間ぐらい経ったある日、新しい飼い主さんから写真が

送られてきました。写真には幸せそうな飼い主さんに抱っこされているあられが写っていました。私はその写真を見た瞬間、ものすごく嬉しかったのと、やっと幸せになれたんだなと心の底から思いました。

最近、恵庭市では野良猫をよく見かけます。もし見かけたらすぐに追い返すのではなく、耳などに注目してみてください。耳カットがされていなければ一人でも多くの方がTNR活動に興味を持ってもらいたいです。自分には関係の無いことといたら確かにそうかもしれませんが、野良猫だって同じ命を持った生き物です。少しでも多くの猫の命を救いたいのので私の家では、今も活動を続けています。